
ネギまの世界に転生しました

MIKE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギまの世界に転生しました

【Nコード】

N1639BA

【作者名】

MIKE

【あらすじ】

転生とは死後に別な存在として生まれ変わる事、また一部の宗教では「再生」とも言われている。
いま一部の神々の暇潰しとして人間を異世界に転生させ、その人間を傍観することが行われている。

この小説はそんな神々の暇潰しによって転生した男の物語である。

小説を書くのは初めてなので誤字、脱字がありましたら教えてください。またキャラ崩壊が嫌な方や原作重視の方は見ないのを勧めます。

ぶろろーぐ(前書き)

誤字、脱字がありましたら教えてください。

ぶるるーぐ

俺は今死にかけてる。

いつものように趣味の神話や伝承などを調べたり、アニメを見たり、ゲームをしたりしていた。

小腹がすきコンビニに行く途中で通り魔に包丁で腹を刺された、刺された所からおびたらしい血が流れて俺は倒れ込んだ。

痛いつてレベルじゃねえ、畜生！！何で俺なんだよ！俺にはまだやりたい事がたくさんあるのによ！！

死ぬなんて嫌だ！クソが通り魔の野郎、苦しんでる俺を見て笑ってやがる。

何が楽しいんだよ！ああ、もう…目の前…が……

「……………此処は……………」

そこは見渡すかぎり白しか見えない何も無い場所だ。だけど何故か安心する。

「此処は聖域じゃ。お主ら人間らの所で言えば天国じゃよ」

「だ…」

声が聞こえた方に向くとし長く白い髭が特徴的な爺さんが立っている。爺さんを見た瞬間声が止まり、自然と片膝を地面に着く格好になる。俺はこうしないといけないと思った。

「ほう、面白いのう。此処に来た人間でその様な格好をしたのはお主が初めてじゃ。してどうしてその様な格好をとるのじゃ？」

「…あんたを見た途端、こうしなくちゃならねえと思った。と言っかあんた何者だ？ただの爺さんじゃねえな」

「なるほど、本能に従ったのかのう…まったく最近の此処に来る人間にも見習って欲しいもんじゃのう。」

それで儂の正体かのお？まあ…最高神に近い神じゃのう」

「そつか…」

「驚かないのう、こつともう「な、なんだってえええ!!!」的なノリはないのかのう？」

「俺は確実に死んでるし、だいたい予想できた」

何だ？そのつまんねえのつてした目は、言えば良かったのか？

「まあいいかのう。それよりもお主、異世界に転生とか興味ないか

のう？て言うかいい加減立っていいぞ？」

俺は立って考える

転生って、あの二次創作とかによくある神様にチート能力とかもら
って第二の人生を楽しむやつか？

「それであってるぞ」

「マジかあ…って心を読むなよ」

心を読むのは覚妖怪だけにしてくれよ。

「すまんおう、それでどうじゃ？転生に興味はあるのかのう？」

「ありありだ」

「即答じゃな、前の世界はもう未練はないのかのう？」

「無いな。俺が死んでる事はたぶんニュースとかなんかで放送され
てるだろ？それに甦ったって俺の居場所はないしな」

「ならば家族はどうなんじゃ？もう会えなくなるんじゃぞ？」

「家族は、俺が小さい頃に母さんは死んだし、ヤクザだった親父は
へまして敵対してた組に殺されちゃったよ。だから俺を悲しむやつ
はいないんだよ」

「…本当に転生してもいいんじゃない？」

「ああ」

「分かった。だが転生する前にやっておく事がある」

何だ？テンプレな特典か？

「そうじゃ。特典は4つまでじゃ」

「どこの世界に転生するんだ？転生先によって特典を変えなきゃいけないからな」

「ネギまの世界じゃ」

たしかネギまつて魔法使いがいる世界だったな。でも原作は途中で飽きて見なくなつたんだよな。まあ原作知識がなくてもいいか。

「では欲しい力を4つまで言つてのじゃ」

「1つ目はありとあらゆる薬と道具を作る力。2つ目はあらゆる知識。3つ目は王の財宝ゲート・オブ・バビロンで中は宝具とかじゃなくて薬とか道具を作る時のあらゆる材料。4つ目はティンダロスの獵犬をくれ」

「3つ目まではいいとして、ティンダロスの獵犬じゃと？何故、あんな化け物が欲しいのじゃ？」

「俺はクトゥルフ神話が大好きだ。その中でもティンダロスの獵犬はすげえ。何せ90度以下の鋭角があればどんな場所でも現れるし、獲物には執念深いから時間や次元を越えて永遠に追いかけてくるからな」

「分かったから一回落ちつくのじゃ」

俺としたことが興奮し過ぎたようだ。

「ティンダロスの猟犬がそんなに欲しいののか？」

「ああ！絶対欲しい！！」

「…良からう、ティンダロスの猟犬を与えよう。じゃがコイツはあまりにも強いからネギまの世界の魔法と気を使えなくさせてもらうが「使えなくなってもいい！！」ならば与えよう」

「あつ、ちょっと待って現れる時の悪臭がでないようにしてくれ。あと主人に忠実で他の動物に変形できるようにしてくれよ」

「まあ良からう……では転生の準備が整ったからあつちにある扉を通るのじゃ」

俺は扉のほうを見る。でも直前で穴に落ちるパターンじゃね？

「安心するといい、俺はお主が気に入ったからそんな事せん」

「心を読むなってまったく…じゃあ行くかな。神様よありがとよ。あんたの事は一生忘れねえからな。信仰はしてやらんが」

「最後のは余計じゃ」

「あばよ。此処に来ることのないようにするぜ」
俺は扉を通りながら、神様に手を振った。第二の人生を楽しませてもらうぜ

神 side

「行つたかの？」

久しぶりじゃな、感謝されたのは。最近来る人間はほとんど儂を神として扱わず上からものを言ってくるうえに力に溺れるからのう。あの者なら力に溺れる事もないじゃろう。さて転生した者達を傍観でもするか。

「あ、転生者が他にもいると言う事を言うの忘れてたの。まあ大丈夫じゃろう、ティンダロスの猟犬は強化させといたしの」

ぶろろーぐ（後書き）

ティンダロスの猟犬とか誰も思いつかなそうなのをいれてみました。
ティンダロスの猟犬とかまじチート。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1639ba/>

ネギまの世界に転生しました

2012年1月4日04時49分発行